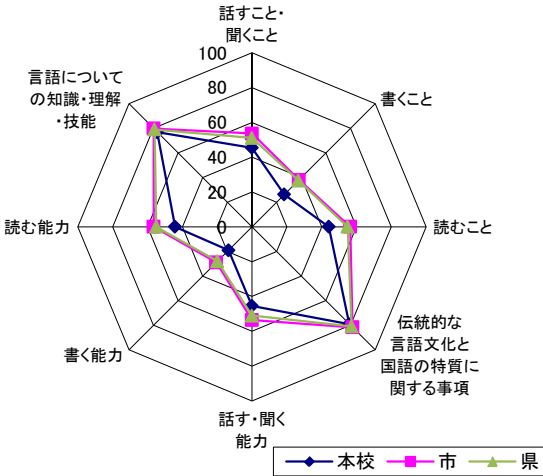


宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	45.4	53.6	51.0
	書くこと	26.2	38.1	37.6
	読むこと	44.2	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.0	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	45.4	53.6	51.0
	書く能力	19.0	29.0	28.0
	読む能力	44.2	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	76.9	79.9	79.1



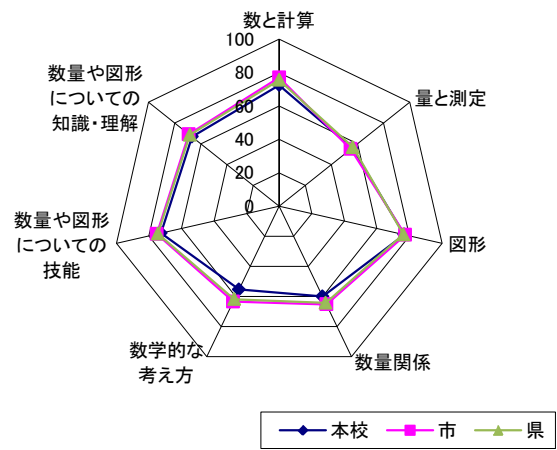
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○互いの考えの共通点や相違点を整理して聞く設問の正答率は55.4%で、県平均より2.6ポイント高い。話の内容の聞き取りには一定の成果がみられる。 ●特に、話し方の工夫に気を付けて聞く設問の正答率は、58.5%であり、県平均より8ポイント低い。話し方の構成やキーワードを聞き取ることに課題がみられる。	・小グループで話し合う活動を授業の中に多く設定し、要点をメモしながら聞く活動をさせたい。また、全員に発表する場を与え、相手に正しく伝えるための話し方の工夫をさせ、話し方。聞き方の工夫を学べるよう、意識して指導する。
書くこと	●領域の平均正答率は26.2%で、与えられたテーマに対する記事を、条件に合わせて書いたり、自分の意見を明確にして書いたりすることに課題がみられる。	・物語を読んだ感想や登場人物の気持ち、要約した文章の内容などを書くときには、テーマや観点を明確にし、さらに行数や文字数を指定して、自分の考えを分かりやすくまとめ決められた長さで文章を書く活動を多くする。
読むこと	●目的や必要に応じて、段落相互の関係をとらえる設問の正答率は55.4%で、県平均より11.8ポイント低い。 ●叙述を基に、場面の様子を読み取る設問の正答率は24.6%で、県平均より23.9ポイント低い。	・説明文や物語文の読み取り方について指導し、段落のつながりや役割に注目して内容を読み取る活動を多くする。 ・登場人物の気持ちが分かるところに線を引ながら読ませたり、会話文のあとに続く気持ちを想像させて吹き出しにまとめたりする活動を多く取り入れ、叙述を基に物語の内容を深く読み取ることができるように指導する。他の教育活動との関連を図り、朝の読書の時間を充実させる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字辞典の使い方を尋ねる設問の正答率は73.8%で、県平均より4.4ポイント高い。 ●漢字を読む4問のうち、第4学年の配当漢字「貨物」を読む設問の正答率は50.8%で、県平均より21.5ポイント低い。漢字を書く3問のうち、第3学年の配当漢字「写す」を書く設問の正答率は56.2%で、県平均より9.5ポイント低い。漢字を正しく読み書きすることに課題がみられる。	・漢字の学習では、新出漢字だけでなく、既習の第4学年や第3学年で学習した漢字も読んだり書いたりできるような復習の機会をもつ。新出漢字については、全体のバランスやはね、止め、払いなどに気を付けて丁寧に練習させ、家庭とも連携しながら定着を図る。 ・朝の学習を利用し、練習や小テストを繰り返し行うことによって、既習の漢字や新出漢字の定着を図りたい。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.5	77.0	75.6
	量と測定	55.8	54.8	56.5
	図形	76.9	77.4	76.3
	数量関係	60.0	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	55.4	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	72.7	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	66.8	69.1	68.4



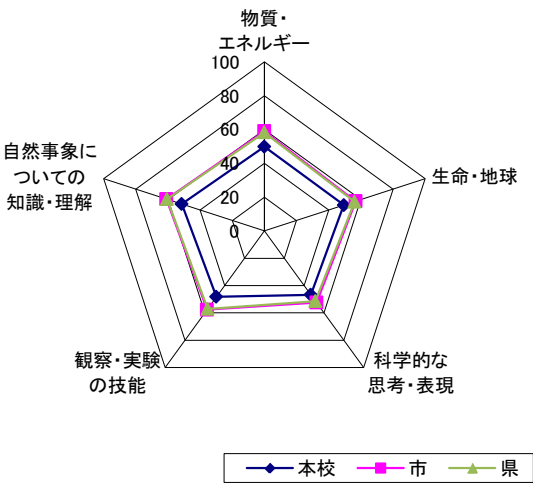
★指導の工夫と改善 ,○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○3位数×2位数を計算する設問の正答率は89.2%で、県平均より9.5ポイント高い。計算の定着に一定の成果が見られる。 ●帯分数－真分数＝真分数の計算の設問の正答率は64.4%で、県平均より14.8ポイント低い。同分母分数の計算に課題が見られる。	・小数、分数、大きな数などの四則演算や式と図の関係を尋ねたりする問題に多く取り組ませる。計算については、家庭とも連携し、ドリルを活用して繰り返し練習させることで、基礎・基本の定着を図る。 ・朝の学習の時間で「計算大相撲」で計算練習やテストを実施し、計算の基礎的な力が定着できるようにする。
量と測定	○角の大きさの見当をつけることができるの設問の正答率は81.5%で、県平均より7.5ポイント高い。また、正方形の面積を求める設問の正答率は75.4%で、県平均より6ポイント高い。角の大きさや面積の理解に一定の成果が見られる。 ●面積㎡とcm㎡の単位の理解設問の正答率は29.2%で、県平均より13.6ポイント低い。単位の換算について課題がみられる。	・説明だけではなく実際に測ったり試したりする操作活動を多く取り入れ、児童が実感し、より理解が深まるように指導する。 ・公式をつくる活動を重視し、図と式の関係について考えたり説明したりする活動を設定し、量に対する感覚を養っていききたい。
図形	○立方体の見取り図から平行な辺を選ぶ設問の正答率は84.6%で、県平均より4.2ポイント高い。面の構成の理解に一定の成果が見られる。	・三角定規、コンパス、分度器などに慣れさせ、正確に作図ができるように個別指導を充実させる。作図の際、なぜその手順なのかを確かめることにより、それぞれの図の構成要素についての理解を深めさせる。
数量関係	○伴って変わる二つの数量の関係を式で表す設問の正答率は67.7%で、県平均より11ポイント高い。計算のきまりや変わり方理解に一定の成果が見られる。 ●複合図形で、面積を求める図と合った式を選ぶ設問の正答率は43.1%で、県平均より25.3ポイント低い。図と式を結び付けて考える内容に課題が見られる。	・児童にとって身近な日常生活と関連付けた内容について、表やグラフを使って考えさせ、伴って変わる二つの数量についての関係が理解できるように指導する。 ・面積を求める公式についての定着を図るとともに、図を等積変形するような問題に多く取り組ませ、いろいろな解法についての指導をする。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	49.9	59.0	58.3
	生命・地球	49.5	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	46.7	52.5	51.4
	観察・実験の技能	48.3	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	51.4	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○熱せられた空気は上昇することを基に結果を推測する設問の正答率は70.8%で、県平均より9.8ポイント高い。空気と温度の関係の理解に一定の成果が見られる。 ●水は沸騰すると水蒸気という気体の水になることを選択する設問の正答率は32.3%で、県平均より22.2ポイント低い。水の変化についての知識の定着に課題が見られる。	・実験前にどのようなようになるか予想させたり、実験後には予想と比べながら考察させたりする活動を充実させることで、より確かな知識として定着できるようにする。 ・実験の事象や分かったことを、身近な生活と結びつけてまとめる活動を通して定着を図る。
生命・地球	○1日の気温の変化のようすから天気を推測する設問の正答率は63.1%で、県平均より2.9ポイント高い。天気の変化についてグラフを読み取って考えることに一定の成果が見られる。 ●星座早見の月日と時間の合わせ方の設問の正答率は43.1%で、県平均より15.6ポイント低い。星座早見の使い方や見方について課題が見られる。	・星座早見の使い方に習熟できるよう、実際に操作させながら取り組ませていきたい。 ・他の教育活動との関連を図り、日常生活の中の事象を説明したり、理由を考えさせたりする活動を多く取り入れていきたい。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」と回答した児童は89.2%で、県平均より3.9ポイント高い。新しく習うことに興味・関心を持ったり、自分で考え解決できたことに喜びを感じたりしている児童が多いことがうかがえる。今後も、児童が学習に興味関心をもって取り組めるような教材を工夫していきたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」と回答した児童は、76.9%で、県平均より4.7ポイント高い。教師との信頼関係ができていたことが伺える。考え努力しようとしている児童のよさを伸ばすためにも、分からないことは素直に教師に聞けるよう、さらに安心感のもてる接し方を工夫していくことが大切であると考えられる。

○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」と回答した児童は84.6%で、県平均より6.8ポイント高い。「将来の夢や目標をもっている。」と回答した児童は96.6%で、県平均より7.1ポイント高い。今後も、様々なことに前向きに取り組む、夢や目標をもって生活できるよう支援していきたい。

○「家の人と学校での出来事について話をしている。」と回答した児童は、95.4%で、県平均より10.6ポイント高い。また、「家の人と将来について話をしている。」と回答した児童は80.0%で、県平均より11.6ポイント高い。それぞれの家庭で親子で話をする時間が確保できていることが伺える。さらに児童と保護者が深く関わり合うことができるよう、家庭学習の出し方を工夫したり学年・学級懇談会で話題にしたりしていきたい。学校と家庭が連携して児童を見守り、育てていくことが大切であると考えられる。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」と回答した児童は73.8%で、県平均より4ポイント高い。多くの児童が生活の拠点である地域に目を向け、地域の一員としてできることを実践していこうと考えていることが分かる。今後も、地域に目を向けさせ、地域の一員としての自覚をもてるような言葉かけを心がけていきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童は41.5%で、県平均より21.9ポイント低い。「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と回答した児童は52.3%で、県平均より9.7ポイント低い。学習に対して意欲をもって取り組んでいる児童は少ない。自主学習の進め方などについて指導し、やる気を持ってコツコツと努力する態度を養っていきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童は66.2%で、県平均より7.3ポイント低い。自分の考えを表現することに苦手意識を持っている児童がいることが伺える。安心して発言できるよう、相手の話を真剣に聞く態度を育てたり、話し合う機会を意図的に設定したりしていく必要がある。

●「見てはいけないサイトにつながらないようにしている。」と回答した児童は29.4%で、県平均より14.1ポイント低い。危機意識が薄いことが伺われる。このような実態から、家庭とも連携し、情報モラル教育をさらに推進していく必要がある。